

# みる つくる がたる

千葉県立美術館報

VOL. 17 NO. 2

(通巻65号)

平成3年2月5日発行

編集・発行人 竹内一雄

〒260

千葉市中央港1丁目10番1号

☎0472-42-8311 (代表)



## マリー・ローランサン

### 「犬を連れた夫人像」

油彩・キャンバス 一九一四年

(特別展「マリー・ローランサン」出品・群馬県立近代美術館蔵)

初期のローランサンの作品は、ブラックやピカソらの野獣派や立体派の影響を色濃く留めているが、やがて一九一〇年を境にその画風はひとつの変貌を遂げる。それは、様式や流行を越えて、本来の自分を、あるいは本当に自分の描きたいものを見極める時でもあった。

「犬を連れた夫人像」は一九一四年、三二才の時の作品である。この二年前に恋人だったアポリネルとの離別があり、前年には母を失うなど、悲痛な出来事が続いた後の作品である。

淋しげで、虚ろな眼差しの女は、心の拠り所をなくして宙に漂っているかのようにであり、仄暗い背景がその孤独感を一層際立たせている。この女には、物言わぬ子犬だけが唯一の慰めでしかない。

画中の「夫人」は、恋人と別れ、母を亡くして天涯孤独の身になったローランサン自身の投影であろうか。

この後、スペイン亡命時代を経て、パリ画壇に復帰するまでローランサンの画面からしばらく明るさが消える。

(田坂 浩)

みる

特別展

— 夢と哀愁の女流画家 —

マリリー・ローランサン

1911.2.16(土) ~ 3.24(日)

その生涯にわたり旺盛な制作を続けたローランサンの芸術家としての活動は、ピカソらのキュビスムの影響を受けながらも独自の画風を確立する初期、ドイツ人の男爵との結婚と第一次世界大戦勃発による亡命期、離婚後パリ画壇に復帰し最晩年に至る円熟期の三期に、大きく分けられます。

◆誕生から画家になるまで

ローランサンは一八八三年母ポーリーヌ・メラニー・



「サーカスにてあるいはバレリーナとギタリスト」

と知り合い、彼の紹介でピカソやその仲間との交際を始めます。フォービイスムやキュビスムの画家たちからの制作上の影響や、生涯彼女の心にとどまる詩人ギョーム・アポリネールとの恋愛、独自の画風の確立など、ロ

ローランサンの私生児としてパリに生まれました。母は娘に読書や音楽などの素養を与え、身のまわりを手作りの縫い物や刺しゅうで飾りました。こうした環境は彼女の女性らしい感性を養う基盤となりました。

絵が好きだったマリリーは女子師範学校の受験を勧め、母を説得し、一九〇四年(二二歳)からアカデミー・アンペールへ通い、本格的に絵の勉強を始めます。この画学校で



「バルコニーの二人の少女」

ローランサンにとって非常に吸収するものの多かった時期といえます。

◆亡命期

一九一四年六月にドイツ人の男爵と結婚しますがその一カ月後に第一次世界大戦が勃発し、ドイツとフランスが開戦することになり、災害を避けるべく夫と共にスペインへ亡命します。亡命生活は一九一九年までつづきました。この時期は時代的にはもちろん精神的にもパリを離れたことや夫との不仲などから創作が

途絶えがちとなり、作品の数も比較的少なく、画面には憂鬱な雰囲気漂っています。

◆パリ画壇復帰以降晩年まで

疎遠な状態が続いていた夫と正式に離婚する一九二二年ローランサン三九歳の年、再びパリに到着し上流階級の婦人仲間に加わって、注文を受け多くの肖像画を描き、流行作家としての地位を築きます。その一方で版画や水彩画のみならず、本の挿絵やバレエの舞台装置や衣裳なども手掛けるようになります。この画壇復帰の二〇年代は、画家として彼女がもっとも充実していた時期といえるでしょう。またこの時期に家政婦として雇い入れたシュザンヌ・モローを恋人のように、娘のように愛し、生涯をともに過しました。

一九三〇年頃から彼女の画面からは徐々に緊張感が薄れ、舞台美術や肖像画の依頼を受

けて制作するほかは、想像や記憶によって描くことが多くなりました。情緒性も一段と強くなって、少女時代を懐かしむかのように可憐な少女を最晩年に至るまで数多く描き続け、一九五六年パリのアパートマンで七三年間の生涯を終えました。遺志により、白い衣裳に赤いばらを手し、ギョーム・アポリネールの手紙を胸に抱いて埋葬されました。(中松彰久)

★観覧料

一般五〇〇円(三〇〇円)、高・大学生三〇〇円(二〇〇円)、小・中学生二〇〇円(七〇円)(内は二〇名以上の団体料金)

●美術講演会

第五回

日時 二月二三日(土)二

時

演題 「ローランサンの

芸術—その魅力と

秘密—

講師 瀬木 慎一氏

(美術評論家)

※会場は本館講堂で参加者は二〇〇名を対象としています。聴講料は無料

企画展

「リアリズムの追求」  
第2回浅井忠記念賞展

91.1.6(日)～2.11(月)

第2回浅井忠記念賞展は、前号の館報でお知らせしましたように、本県出身の日本近代洋画の先駆者、浅井忠の画業を顕彰すると共に、彼が目ざした「リアリズムの追求」をテーマとして、具象的傾向の洋画作品を全国公募し、現代における美術の振興を図るために開催するものです。

公募作品は平成2年11月16日～18日に搬入され、29都道府県から372点の応募がありました。



(大賞) 田中定一「私の地球」

した。前回の応募点数(455点)よりは若干少ないものの、アマチュア的、趣味的作品はほとんど姿を消して、意欲的な大作が多く、内容的には前回を大きく上回りました。

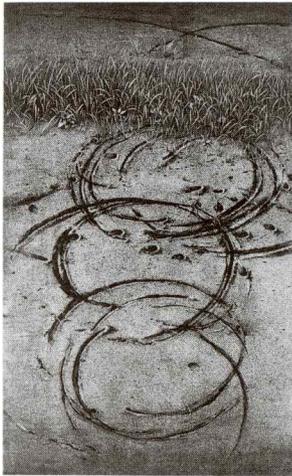
平成2年11月29日、審査員の方々(乾由明、植村鷹千代、陰里鐵郎、嘉門安雄、桑原住雄、中村傳三郎、原田平作、本間正義、三木多聞)による作品審査が行われ、厳正なる選考の結果、大賞1点、優秀賞3点、入選96点が選定されました。



(優秀賞) 櫻井辰正「Carrie」

- ◎大賞 田中 定一(栃木県)
- ◎優秀賞 櫻井 辰正(奈良県)
- 片小田栄治(東京都)
- 中野 庸二(京都府)

審査講評によれば、大賞「私の地球」(田中定一)は、健康で開放的なイメージの作品であり、大賞にふさわしい風格を持ち、優秀賞「Carrie」(櫻井辰正)は、緊張感のある表現方法が現代的なものとして評価され、「地I(DIRTY COLLECTIONより)」(片小田栄治)は、克明な描写により、平明な



(優秀賞) 片小田栄治「地I(DIRTY COLLECTIONより)」

写真を超えた、不思議な魅力を生んでおり、「a ripple」(中野庸二)は、造形的な構成と情動的な表現とが緊密に結びついていることなどが主な受賞理由です。

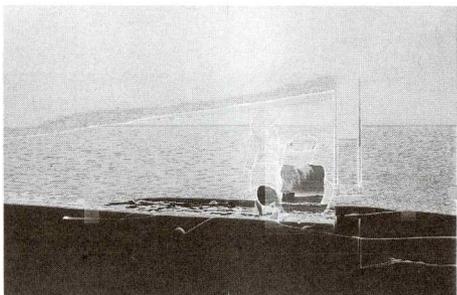
授賞式は平成3年1月5日午後2時20分より行われ、沼田武千葉県知事、山本鉄男千葉県議会議長をはじめ多数の来賓と主催者側から岩瀬良三千葉県教育委員会教育長、吉田猛千葉県教育庁生涯学習部長、竹内一雄千葉県立美術館長等が出席し、盛大に挙行されました。席上、受賞者には賞状及び副賞が、入選者には賞状が館長より授与されました。引き続き、テープカットの後、展覧会の見学、最後にレセプションが行われ、新春に相応しい華やかな展覧会のスタートとなりました。

会場には入賞・入選作品計

100点の外、浅井忠作品コーナーを設け、本館収蔵の作品や資料など約100点の展示によって現代の具象絵画の傾向と同時に、浅井忠の世界を鑑賞することが出来、展覧会の趣旨に沿った充実した内容となっています。

また、1月19日午後2時から、今回の審査員でもある大阪大学教授の原田平作氏による「浅井忠と現代」と題した美術講演会が実施されました。浅井忠の作品を中心にスライドを交えながら幅広い視点から話があり、本展覧会の一層の興味と理解を深める有益な機会となりました。

(大久保守)



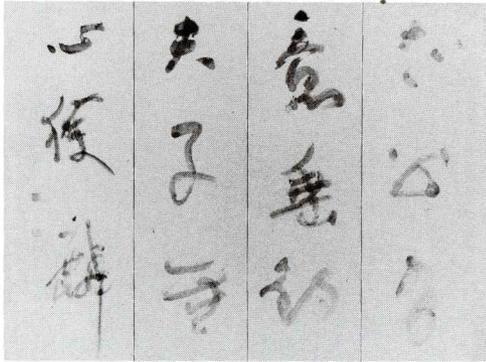
(優秀賞) 中野庸二「a ripple」

第5期  
常設収蔵作品展

常設収蔵作品展第5期として、書のコーナーを設置いたします。

本館では、昭和52年7月に企画展「房総の書芸展」を開催し、江戸から明治にかけての書家、学者、文人など28名の書跡を回顧いたしました。その後も、房総の美術家シリーズ、常設展を通じて紹介してきたところですが、このたび、現在の本県を代表する書家たちの作品を展覧いたします。

書は、いうまでもなく筆の造形を主体とする造形芸術ですが、運筆の幅、速度・リズムなどにより、それぞれ独自の世界が形成されています。この機会に、書家たちが表現する世界を御鑑賞ください。なお、出品する作家及び作品は次のとおりです。  
(50音順)  
浅見喜舟「太公有意垂釣」(昭58)、江川碧潭「白雲青山詩」(不詳)、小安花邨「バイロンの言葉」(昭41)、鱧松塘「七言古詩」(不詳)、鈴



浅見喜舟「太公有意垂釣」

木方鶴「一笑千山青」(昭59)、高宮金陵「山部赤人歌」(不詳)、中台邱園「盧綸詩」(昭61)  
〈以上、物故者〉

浅見錦龍「古泉千樞の歌」(昭51)、大石隆子「待君」(昭50)、金子聴松「視思明」(昭48)、小暮青風「万葉集東歌」(昭41)、高澤南総「桃李争妍」(昭45)、種谷扇舟「故郷之山河」(不詳) 千代倉桜舟「宗左近の歌」(昭63)、中村象閣「古泉千樞の歌」(昭47)、福田丞洲「蘇東坡詩」(昭58) 16作家16点を展示します。  
(会期)平成3年2月16日(土)から3月31日(日)まで

第14回  
千葉県移動美術館報告

本館の収蔵作品を中心とした県内巡回展の「千葉県移動美術館」が好評裡に終了しました。本年度は第14回展として、県立美術館、八日市場市教育委員会、栄町教育委員会との共催により、平成2年11月20日から12月2日まで八日市場市立公民館、次いで12月5日から18日まで栄町役場町民ギャラリーで実施しました。開催日数は、それぞれ11日、14日でした。

作品の内容及び点数は、館収蔵の日本画5点、洋画15点、版画8点、彫刻4点、工芸9点、書3点のほかに、本年第42回県展で県展賞及び文部大臣奨励賞の受賞作品6点を併せた計50点でした。  
入場者数は、八日市場市では一〇〇名、栄町では一三〇七名でした。いずれも児童から高齢の方々まで幅広い層にわたり鑑賞者が訪れ美術作品に親しまれました。  
また会期中に来場者に本展の感想を伺ったところ、多くの方々から実際に優れた美術作品を鑑賞する機会を得た喜びとともに、このような巡回



八日市場市立公民館

展事業について賛同をいただくことができました。いくつかの感想(アンケート)を御紹介します。  
○「近い場所で芸術を鑑賞できるのはとてもすばらしい事だと思えます。一年に一度でもいいので楽しみを持てればと思います。」(女性・40才)  
○「なかなか美術館に行けないのでこういう機会をもっと作ってほしい。よかった。」(女性・30才)  
○「都会より移住して久し振りに目を楽ませていただきました。」(男性・68才)  
○「これを機会に千葉県立美術館に行ってみたくなりました。」(男性・26才)



栄町役場町民ギャラリー

このほか本展のPRの拡大をはじめ作家や作品に関する補助解説等の工夫についての要望もあり、今後の運営上の参考となる意見も寄せられました。これからも一層親しまれる移動美術館をめざして努力し、実施していきたいと思えます。  
このような巡回展により、できるだけ多くの県民の方々が優れた美術作品に接して美術に対する興味や関心を抱かれ、日々の生活の潤いとされることを念願しています。なお、巡回展の鑑賞を契機として、美術館における様々な事業についても理解いただき、身近な存在として活用していただければと思います。

### 新収蔵作品紹介

平成2年度に収蔵された作品を紹介いたします。  
(平成3年1月31日現在)

●購入

(日本画)  
横尾芳月作

「緑陰」(紙本着彩一九五)  
「鏡獅子」(紙本着彩一九六)



小宮山 俊「赤い嶺(雪稜)」



鈴木方鶴「一笑千山青」

小宮山俊作  
「赤い嶺」(雪稜)  
(紙本着彩一九六)

石井林響作  
「漁樵」(絹本着彩一九三頃)

吉田博作  
「雨後の穂高山」(油彩一九七頃)

柴田祐作  
「水郷静日」(水彩一九八)



吉田 博「雨後の穂高山」



柴田 祐作「水郷静日」

辻 志郎作  
「スペース・タイム」  
(ブロンズ一九九)

鈴木方鶴作  
「一笑千山青」(墨一九四)

「壺中日月長」(墨一九四)

●基金取得  
(洋画)  
梅原龍三郎作

「伊豆大仁風景」(油彩一九五)

「彫刻」  
零駒無蔵作  
「過ぎし日のアパート」(石一九九)



梅原 龍三郎「伊豆大仁風景」

南部治夫作  
「時の流れに:(相)」  
(木一九九)

アントワヌ・ブールデル作  
「聖母子」(ブロンズ一九三)

●寄贈  
次の作品を寄贈いただきました。ここに厚く御礼申し上げます。

(日本画)  
横尾芳子氏より

横尾芳月作  
「いで湯」(紙本着彩一九〇)

「澄心」(紙本着彩一九四)

「春風」(紙本着彩一九六)

石井左右平氏より

石井林響作  
「岩魚つり」(紙本着彩一九六)

込山俊男氏より  
小宮山俊作  
「白い嶺」(紙本着彩一九六)

「沙羅の樹の下」  
(紙本着彩一九〇)

小暮貞次氏より  
牧野三生郎作  
「赤目之滝」(紙本墨彩)

(洋画)  
足立朗氏より

足立源一郎作  
「水郷初夏」中州4(油彩一九五)

「水郷初夏」中州5(油彩一九五)

「水郷初夏」中州水明館より  
(油彩一九五)

柴田正巳氏より  
柴田祐作  
「佐原風景」(水彩一九〇)

「白い蔵」(水彩一九八)

(書)  
小暮貞次氏より

小暮青風作  
「修羅」(墨一九七)

「漂泊の思い」(墨一九八)

「一閑人」(墨一九〇)

鈴木栄子氏より  
鈴木方鶴作  
「天真爛漫」(墨一九七)

「登樓萬里春」(墨一九八)

「華下一壺酒」(墨一九四)

高橋正次氏より  
高橋蒼峰作  
「破戒」(墨一九〇)

「鳴瑟」(墨一九四)

(研究資料)  
石井左右平氏より  
「石井林響印譜」

5月より開始した美術館主催の実技講座は、1月11日の陶芸講座を最後に全て無事終了しました。以下、今年度の内容を簡単にまとめました。

日本画講座

受講生が持ち寄った下絵をもとに観察や構想について学習した。(12日間)参加者18名、講師、斉藤淳氏。

洋画講座1・2

第1期は花、着衣、風景(中央港付近)を油彩と水彩で、第2期は花、静物を油彩で実施した。(各期間10日間)参加者各32・32名、講師、熊谷文利、小林数の各氏。

版画講座1・2

各期とも、受講生が持ち寄った下絵をもとに観察や構想を重ね銅版画の基礎的技法の習得に励んだ。(各期間12日間)参加者各9・15名、講師増田陽一、牛政健治の各氏。

彫刻講座

昨年度に引き続いて、多胡石(砂岩の一種)を刻み、人物、動物を表現する過程を通して石彫の基礎的技法を習得した。(12日間)参加者10名、講師、酒井良氏

陶芸講座1・2

各期2回の成形、素焼、釉、焼成という工程で、信楽土を素材に、花器、食器等を制作した。(各期間9日)参加者各32・31名、講師、明石昇、鎗田和平の各氏。

書芸講座1・2

第1期はかな、第2期は漢字に取り組み、筆、墨、紙等の説明から書の歴史書の見方等を学習し

実技講座のまとめ



た。(各期間3日間)参加者各25・18名、講師、高木東扇、中村象爾の各氏。

御多忙な中から、本講座のために時間を裂いていただいた講師の諸先生方に厚くお礼を申しあげますと共に、受講生の皆さんの協力で事故無く終了できたこと感謝致します。

情報資料室から

新収蔵図書のお知らせ

- ◇『世界美術の旅』全12巻 世界の美術館・博物館や建築、遺跡等を旅行記風に解説。
- ◇『大正二ニュース事典』全8巻

大正期に起きた事件の数々を当時の新聞記事により解説。

『名画の技法』辻茂監修

ジョットーからホックニーに至る画家たちの名画を構図、色作り、塗り方等の様々な観点から分析。

『ロマン派』ジャン・クレイ著

高階秀爾監訳 ロマン派の画家たちの作品とその生み出された背景等について詳しく考察。

『モダンマスターズシリーズ』全6巻

ポロック、クレーニング、ゴッキー、シーガル等、現代美術の先駆者たちを1巻1人で6人を紹介。

◇画集・作品集

中村象、淀井敏夫、佐々木象堂、ヒエロニムス・ボッス、ロートレック、ホックニー等の個人作品集や、その他「螺鈿」などの作品集等。

◇辞典類

●作家関係

- 『房総人名辞典』 来日西洋人名辞典 『宋元明清 書画名賢詳伝』 『欧米文芸登場人物事典』 『現代名工・職人名辞典』 『日本美術家事典』 等。

●鑑賞・用語関係

- 『茶道美術鑑賞辞典』 『和英対照 日本美術用語辞典』 『ギリシア・ローマ神話事典』 『世界文学辞典』 等。

なお、2月16日から開催する特別展「マリー・ローランサン」を機会に、ローランサン芸術の理解に資するため、左記の図書を新たに収蔵しましたので旧蔵の関係図書と併せて御利用ください。

◇『マリー・ローランサン』 安藤元雄監修

◇『夜の手帖(マリー・ローランサン詩文集)』 大島辰雄訳

◇『虹の上の舞踏』 澤野久雄著

◆開室日 火・金(祝日を除く) 12時30分〜4時30分

閲覧のみ(貸出し、コピーサービスは行っていません)

日誌抄

6・9	特別展「石井林響をめぐる画家たち」(7・15)
6・13	関東地区博物館協会理事会・総会・研究会・見学会(7・14)
6・16	第1回美術講演会
7・7	第2回美術講演会
8・6	博物館実習(7・11)
8・7	調査研究員会議
9・13	企画展「鈴木方鶴展」(10・14)
9・22	第3回美術講演会
9・28	美術館協議会
10・18	県立美術館博物館学芸課普及課職員研修
11・19	第14回千葉県移動美術館(八日市場市立公民館) (12・2)
12・4	第14回千葉県移動美術館(栄町役場町民ギャラリー) (18)
12・21	平成3年度展示室利用団体調整会議
1・5	第2回浅井忠記念賞展授賞式・オープンングレセプション
1・6	第2回浅井忠記念賞展(2月11日)
1・19	第4回美術講演会